

A photograph of a business meeting in progress. A woman in a white blazer is smiling and looking towards the left. In the background, a man in a dark suit is partially visible. They are seated at a wooden table with a laptop and some papers. The image is partially obscured by a large blue diagonal shape on the left side.

【GBC】 財務会計 事前課題 解答

世界に近づく7週間

【例題】以下の取引の仕訳をしてください。

GBCプログラムへ8名参加が決まった。参加代金の30,000円を8名分、普通預金口座に振り込まれた。

借方		貸方	
普通預金(資産+)	240,000円	売上(収益+)	240,000円

解説

①借方: 普通預金口座へ30,000円 × 8=240,000円が振り込まれ増加した。勘定科目の「普通預金」=分類は「資産」が増加。

②貸方: GBCの売上が30,000円 × 8=240,000円計上されたため、勘定科目「売上」=分類は「売上」が増加。

【問1: 売上】以下の取引の仕訳をしてください。

商品をA社に50,000円売り上げた。代金のうち、30,000円は現金で受け取り、残りは掛けとした。

借方		貸方	
現金(資産+)	30,000円	売上(売上+)	50,000円
売掛金(資産+)	20,000円		

いずれかの勘定科目を使用

- ・売上
- ・現金
- ・売掛金
- ・買掛金
- ・備品

【問2:仕入1】以下の取引の仕訳をしてください。

B社より商品30,000円を仕入れ、代金のうち20,000円は小切手を振り出して支払い、残額は掛けとした。

借方		貸方	
仕入(資産+)	30,000円	当座預金(資産-)	20,000円
		買掛金(負債+)	10,000円

いずれかの勘定科目を使用

- ・仕入
- ・売掛金
- ・買掛金
- ・当座預金
- ・商品

【問3:仕入2】以下の取引の仕訳をしてください。

商品90,000円を掛けて、送料10,000円は当座預金から支払った。

借方		貸方	
仕入(資産+)	100,000円	買掛金(負債+)	90,000円
		当座預金(資産-)	10,000円

いずれかの勘定科目を使用

- ・現金
- ・売掛金
- ・仕入
- ・立替金
- ・当座預金
- ・売掛金

解説

- ①商品を買掛で仕入れたので、貸方は買掛金90,000の増加とします。
- ②引取運賃は小切手を振り出して支払ったので、貸方は当座預金10,000の減少とします。
- ③当社負担の仕入諸掛は仕入原価に含めるので、借方の仕入は貸方の合計額となります。

【問4：売掛金1】以下の取引の仕訳をしてください。

得意先の掛代金20,000円について、送金小切手を受け取った。

借方		貸方	
現金(資産+)	20,000円	売掛金(資産-)	20,000円

いずれかの勘定科目を使用

- ・現金
- ・売掛金
- ・買掛金
- ・前受金

【問5：売掛金2】以下の取引の仕訳をしてください。

A社に対する掛代金100,000円の回収として、振込手数料500円を差し引かれた金額が、当座預金に振り込まれた。

借方		貸方	
現金(資産+)	99,500円	売掛金(資産-)	100,000円
支払手数料(費用+)	500円		

いずれかの勘定科目を使用

- ・現金
- ・当座預金
- ・支払手数料
- ・貸付金
- ・売掛金

【問6：備品】以下の取引の仕訳をしてください。

会社で使用する備品100,000円分を、現金で支払った。

借方		貸方	
備品(資産+)	100,000円	現金(資産-)	100,000円

いずれかの勘定科目を使用

- ・備品
- ・現金
- ・当座預金
- ・売掛金

【問7:現金過不足1】以下の取引の仕訳をしてください。

期末に金庫を調べたところ、現金の実際の残高が400,000円であるのに対して、帳簿上の残高が450,000円であった。

借方		貸方	
現金過不足(資産+)	50,000円	現金(資産-)	50,000円

いずれかの勘定科目を使用

- ・現金
- ・現金過不足

解説

①実際の手元の現金が50,000円不足しているため、現金(資産)を減らすため貸方に置く。

②そして、現金の過不足を扱う勘定「現金過不足」を借方に置く。

【問8:現金過不足2】以下の取引の仕訳をしてください。

問7の現金過不足50,000円が、パソコン(備品)の購入という事が判明した。

借方		貸方	
備品(資産+)	50,000円	現金過不足(資産-)	50,000円

いずれかの勘定科目を使用

- ・現金
- ・現金過不足
- ・備品

【問9:現金過不足3】以下の取引の仕訳をしてください。

問7の現金過不足50,000円が、決算まで結局判明しなかったため、雑損に振り替える。

借方		貸方	
雑損(費用+)	50,000円	現金過不足(資産-)	50,000円

いずれかの勘定科目を使用

- ・現金過不足
- ・雑損

【問10: 営業費】以下の取引の仕訳をしてください。

営業活動のため、使用している携帯電話の使用料10,000円と、インターネットの使用料5,000円が口座から引き落とされた。

借方		貸方	
通信費(費用+)	15,000円	当座預金(資産-)	15,000円

いずれかの勘定科目を使用

- ・当座預金
- ・通信費
- ・現金
- ・営業費
- ・広告宣伝費

【問11:付け替え】以下の取引の仕訳をしてください。

現金20,000円を、当座預金に付け替え、その際、振込手数料が150円発生した。

借方		貸方	
当座預金(資産+)	20,000円	現金(資産-)	20,150円
支払手数料(費用+)	150円		

いずれかの勘定科目を使用

- ・現金
- ・当座預金
- ・支払利息
- ・支払手数料

【問12:貸付金】以下の取引の仕訳をしてください。

A社に貸し付けていた100,000円が、利息200円を乗せて、
当座預金に振り込まれた。

借方		貸方	
現金(資産+)	100,200円	貸付金(資産-)	100,000円
		受取利息(費用+)	200円

いずれかの勘定科目を使用

- ・現金
- ・当座預金
- ・受取利息
- ・貸付金
- ・売掛金

【問13:土地】以下の取引の仕訳をしてください。

営業に使用する目的で、土地1,000,000円を購入し、仲介手数料1%と土地の整備料90,000円を含めた全額は、後日支払うことにした。

借方		貸方	
土地(資産+)	1,100,000円	未払金(負債+)	1,100,000円

いずれかの勘定科目を使用

- ・現金
- ・売掛金
- ・土地
- ・立替金
- ・未払い金
- ・支払手数料

解説

①仲介手数料と土地の整地費用は付随費用として土地の取得原価に含めます。

②この土地は販売目的によるものではないので、貸方は買掛金ではなく未払金とします。

減価償却とは？

“

減価償却費とは、固定資産の取得にかかった費用の全額をその年の費用とせず、耐用年数に応じて配分しその期に相当する金額を費用に計上する時に使う勘定科目のこと。減価償却の対象となる固定資産を「減価償却資産」といいます。

”

何で必要なの？

設備や建物は、購入した年だけでなく、数カ月・数年単位で収益を生み出すため、「耐用年数」に応じて費用を計上します。収益と費用の発生タイミングを一致させ、その企業の力を正確に測るための会計ルールです。

減価償却方法は？

直接法

借方		貸方	
減価償却費 (費用+)	100,000円	機械設備 (資産-)	100,000円

減価償却費を、直接資産の価値から減らす方法。

間接法

借方		貸方	
減価償却費 (費用+)	100,000円	減価償却累計額 (資産-)	100,000円

減価償却費を、累計額として算出する方法。

定額法と定率法

・**定額法**: 毎年、一定額を減価償却費として計上していく方法。年ごとに、価値が減りにくい減価償却資産に適用する傾向がある。(例、車、建物、など)

・**定率法**: 毎年、償却残高の一定率を減価償却費として計上していく方法。時間が経過していくごとに、価値が大きく減っていく設備に適用する傾向がある。(例、液晶テレビの工場、パソコン、など)

詳しい計算方法はこちら: <https://corp.infomart.co.jp/seikyu/column/detail.html?itemid=1242&dispmid=417>

【問14:減価償却1】以下の取引の仕訳をしてください。

×2年3月31日、決算につき、建物(取得日:×1年4月1日、取得原価:1,000,000円、耐用年数:10年、残存価額:ゼロ、定額法、間接法)の減価償却を行う。

借方		貸方	
減価償却費 (費用+)	100,000円	減価償却累計額 (資産-)	100,000円

いずれかの勘定科目を使用

- ・現金
- ・建物
- ・減価償却費
- ・減価償却累計額
- ・固定資産売却損

解説

①減価償却費の金額は「(取得原価¥1,000,000-残存価額¥0)÷耐用年数10年=¥100,000」です。

②貸方は減価償却累計額とします。

【問15:減価償却2】以下の取引の仕訳をしてください。

×2年3月31日、決算につき、パソコン(取得日:×1年4月1日、取得原価:200,000円、耐用年数:5年、残存価額:20,000円、定額法、間接法)の減価償却を行う。

借方		貸方	
減価償却費 (費用+)	36,000円	減価償却累計額 (資産-)	36,000円

いずれかの勘定科目を使用

- ・現金
- ・備品
- ・減価償却費
- ・減価償却累計額
- ・固定資産売却損

解説

①減価償却費の金額は「(取得原価¥200,000-残存価額¥20,000)÷耐用年数5年=¥36,000」です。

②貸方は減価償却累計額とします。

【問16:減価償却3】以下の取引の仕訳をしてください。

×2年3月31日、決算につき、車両(取得日:×1年10月1日、取得原価:2,00,000円、耐用年数:5年、残存価額:1,000,000円、定額法、間接法)の減価償却を行う。

借方		貸方	
減価償却費 (費用+)	100,000円	減価償却累計額 (資産-)	100,000円

いずれかの勘定科目を使用

- ・現金
- ・車両
- ・減価償却費
- ・減価償却累計額
- ・固定資産売却損

解説

①減価償却費は、取得日(使用開始日)から決算日までの期間で月割計算します。したがって、減価償却費の金額は「(取得原価¥2,000,000-残存価額¥1,000,000)÷耐用年数5年×6か月/12か月=¥100,000」です。

【問17:建物】以下の取引の仕訳をしてください。

建物の改修工事を行い、代金1,000,000円は翌月末に支払うこととした。このうち、700,000円は耐用年数を延長させる改良のための支出であり、残りは定期的修繕のための支出である。

借方		貸方	
建物(資産+)	700,000円	未払金(負債+)	1,000,000円
修繕費(費用+)	300,000円		

いずれかの勘定科目を使用

- ・建物
- ・修繕費
- ・売掛金
- ・買掛金
- ・未払金

解説

- ①固定資産の改良や耐用年数の延長によって、その価値を増加させる支出(資本的支出)は固定資産の取得原価に含めるため、借方は建物700の増加となります。
- ②当初予定された耐用年数や機能を維持するための支出(収益的支出)は修繕費で処理します。
- ③代金はまだ支払っていないので、貸方は未払金とします。

【問18:前払金】以下の取引の仕訳をしてください。

商品100,000円の注文を行い、その手付金として50,000円を現金で支払った

借方		貸方	
前払金(資産+)	50,000円	現金(資産-)	50,000円

いずれかの勘定科目を使用

- ・仕入
- ・前払金
- ・現金

解説

①商品を受け取る前に手付金や内金を支払ったときは前払金(資産)で処理します。商品を受け取るまで仕入は計上しません。

【問19:前払金2】以下の取引の仕訳をしてください。

問18の商品100,000円を受け取り、手付金50,000円を差し引いた残額を掛けとした。

借方		貸方	
仕入(資産+)	100,000円	前払金(資産-)	50,000円
		買掛金(負債+)	50,000円

いずれかの勘定科目を使用

- ・仕入
- ・前払金
- ・現金
- ・売掛金
- ・買掛金

解説

- ①商品を受け取ったので、借方に仕入100,000を記入します。
- ②手付金を支払ったときは前払金(資産)で処理しているので、これを貸方に記入して取り崩します。
- ③残額(貸借差額)を買掛金とします。

【問20:旅費交通費】以下の取引の仕訳をしてください。

従業員に出張旅費の概算額として30,000円を現金で手渡した。

借方		貸方	
仮払金(資産+)	30,000円	現金(資産-)	30,000円

いずれかの勘定科目を使用

- ・仮払金
- ・現金
- ・前払金
- ・旅費交通費

解説

①出張旅費などを概算払いしたときは、内容が判明するまでの間、一時的に仮払金(資産)で処理しておきます。

【問21:旅費交通費2】以下の取引の仕訳をしてください。

従業員が出張から戻り、以下の旅費交通費精算書の提出を受け、残金は現金で受け取った。

【旅費交通費精算書の内容】

電車代2,000円、タクシー代5,000円、宿泊代13,000円

借方		貸方	
旅費交通費(費用+)	20,000円	仮払金(資産-)	30,000円
現金(資産+)	10,000円		

いずれかの勘定科目を使用

- ・仮払金
- ・現金
- ・前払金
- ・旅費交通費

解説

①出張旅費などを概算払いしたときは、内容が判明するまでの間、一時的に仮払金(資産)で処理しておきます。

【問22:給与】以下の取引の仕訳をしてください。

給料日となり、給料総額300,000円のうち、源泉所得税30,000円、社会保険料10,000円を差し引き、当座預金口座から振り替えて支払った。

借方		貸方	
給与(費用+)	300,000円	当座預金(資産-)	260,000円
		所得税預り金(負債+)	30,000円
		社会保険料預り金(負債+)	10,000円

いずれかの勘定科目を使用

- ・現金
- ・当座預金
- ・給与
- ・所得税預り金
- ・社会保険料預り金

解説

- ①給料を支払ったときは、支給額の総額を給料(費用)で処理します。
- ②源泉所得税は所得税預り金(負債)で処理するので、これを貸方に記入します。
- ③社会保険料は社会保険料預り金(負債)で処理するので、これを貸方に記入します。
- ④貸借の差額を当座預金の減少とします。なお、所得税預り金や社会保険料預り金をまとめて「従業員預り金」で処理する場合があります。

【問23：貸倒引当金1】以下の取引の仕訳をしてください。

決算となり、売掛金の残高に対して100,000円の貸倒引当金を設定する。なお、貸倒引当金の残高は80,000円であり、差額補充法によって処理する

借方		貸方	
貸倒引当金繰入 (費用+)	20,000円	貸倒引当金 (資産-)	20,000円

いずれかの勘定科目を使用

- ・貸倒引当金
- ・貸倒引当金繰入
- ・売掛金
- ・貸倒損失

解説

- ①設定額100,000と残高80,000の差額20,000を貸倒引当金繰入(費用)とし、借方に記入します。
- ②貸方に貸倒引当金を記入します。

【問24：貸倒引当金2】以下の取引の仕訳をしてください。

決算となり、売掛金の残高に対して100,000円の貸倒引当金を設定する。なお、貸倒引当金の残高は150,000円であり、差額補充法によって処理する。

借方		貸方	
貸倒引当金(資産+)	50,000円	貸倒引当金戻入(収益+)	50,000円

いずれかの勘定科目を使用

- ・貸倒引当金
- ・貸倒引当金戻入
- ・売掛金
- ・貸倒損失

解説

- ①設定額100,000と残高150,000の差額50,000を貸倒引当金繰入(費用)とし、借方に記入します。
- ②貸方に貸倒引当金を記入します。

【問25：貸倒引当金3】以下の取引の仕訳をしてください。

得意先が倒産し、同社に対する売掛金（前期発生分）200,000円が貸倒れとなった。
なお、貸倒引当金の残高は150,000円であった。

借方		貸方	
貸倒引当金（資産＋）	150,000円	売掛金（資産－）	200,000円
貸倒損失（費用＋）	50,000円		

いずれかの勘定科目を使用

- 貸倒引当金
- 貸倒引当金戻入
- 売掛金
- 貸倒損失

解説

- ① 売掛金などの金銭債権（お金を受け取る権利）が回収不能となったときはその金額を減額するため、貸方に売掛金200,000を記入します。
- ② 貸倒引当金が設定されている場合は、貸倒引当金を取り崩す（減少させる）ため、借方にこれを記入します。
- ③ 貸し倒れた売掛金が貸倒引当金の残高よりも大きい場合、その超過額を貸倒損失として処理します。

【問26: 資本金】以下の取引の仕訳をしてください。

会社の設立に際して、株式10,000株を1株当たり¥20で発行し、全株式の払込みを受け、払込金を普通預金とした

借方		貸方	
普通預金(資産+)	200,000円	資本金(純資産+)	200,000円

いずれかの勘定科目を使用

- ・現金
- ・普通預金
- ・資本金
- ・繰越利益剰余金

解説

- ①普通預金に払い込まれたので、借方は普通預金2,000(=@20×100株)の増加です。
- ②株主からの払込金額は、原則としてその全額を資本金(純資産)とするので、貸方にこれを記入します。
- ③貸し倒れた売掛金が貸倒引当金の残高よりも大きい場合、その超過額を貸倒損失として処理します。

【問27：繰越利益剰余金1】以下の取引の仕訳をしてください。

当期純利益100,000円の振り替えを行う。

借方		貸方	
損益(n.a)	100,000円	繰越利益剰余金 (純資産+)	100,000円

いずれかの勘定科目を使用

- ・現金
- ・普通預金
- ・資本金
- ・繰越利益剰余金
- ・**損益**

解説

①当期純利益ということは損益勘定の借方(費用合計)よりも貸方(収益合計)の方が大きいということなので、これを繰越利益剰余金(純資産)の貸方に振り替えます。

【問28：繰越利益剰余金2】以下の取引の仕訳をしてください。

株主総会において、繰越利益剰余金の配当および処分が次のとおり承認された。

株主配当金：50,000円 利益準備金の積み立て：20,000円

借方		貸方	
繰越利益剰余金 (純資産－)	70,000円	未払配当金(負債＋)	50,000円
		利益準備金(純資産＋)	20,000円

いずれかの勘定科目を使用

- ・現金
- ・普通預金
- ・資本金
- ・繰越利益剰余金
- ・利益準備金
- ・未払配当金

解説

- ①配当金はまだ支払っていないので未払配当金(負債)とし、貸方に記入します。
- ②利益準備金の積立額10は、純資産の増加となるのでこれを貸方に記入します。
- ③繰越利益剰余金からの配当なので、借方は繰越利益

【問29：租税公課】以下の取引の仕訳をしてください。

営業用の店舗の固定資産税10,000円と自動車税3,000円を現金で納付した

借方		貸方	
租税公課(費用+)	13,000円	現金(資産-)	13,000円

いずれかの勘定科目を使用

- ・現金
- ・租税公課

解説

①固定資産税、自動車税、印紙税(収入印紙)などは租税公課(費用)で処理をします。

【問30: 有価証券】以下の取引の仕訳をしてください。

×1年12月10日に、売買目的で保有しているA社の社債(額面総額: ¥ 1,000,000、帳簿価額: ¥ 980,000、年利率: 7.3%、利払日: 9月末日と3月末日の年2回)を売却し、端数利息を含めた金額 ¥ 985,000 が普通預金口座に振り込まれた。なお、端数利息は1年を365日として、前回の利払日の翌日から売却前日までの期間に相当する金額を日割りで計算すること。

借方		貸方	
普通預金(資産+)	985,000円	売買目的有価証券(資産-)	980,000円
有価証券売却損(費用+)	9,000円	有価証券利息(収益+)	14,000円

いずれかの勘定科目を使用

- ・普通預金
- ・有価証券売却損
- ・有価証券利息
- ・売買目的有価証券

解説

- ①利息の計算 額面1,000,000円 x 7.3% x (70日/365日)
- ②振り込まれ金額は985,000円
- ③帳簿額980,000 + 利息14,000円=994,000円から、振り込まれた985,000円の差額9,000円が損となる。